



長髪を切って、黒く染めた石松さん。
「研修医の日々は忙しいけど、グラフィスの活動に比べたら、まだ平気かな」

★医大に入學したけど、医者になるのは六年先。医者になった自分を

やっています。

☆なぐせいせいから学生生活を活動に費かちどうに費つい
とに精せいいっぱいです。僕ぼくたちは

う。大人も子どもも、生きるこ

と思ったから、突き進ん 葉や病院がなくて死んでしま

「かっこいい」がいました。軽度の病気でも、

たり前のことかできない子ども

ボランティアにかんしん関心をよ寄せてほしい

☆もともとボランティアに興味があったのですか。

★いえ、むしろ距離を置いていました。もちろん、ボランティア

一人違うから、結局は僕のやり
たいようにするしかない。僕は
正直、ボランティアという意識
はありませんでした。カンボジ



12月4日より、渋谷
シネマで公開
©映画製作 NGO マジガチ

金髪きんぱつの長い髪かみに、日焼けサロンの焼いた黒い肌——見た自は派手な「ギャル男」の右松宏章みぎまつ ひろあきさんは、大学生時代にチャリティーサークル「グラフィス」を立ち上げ、カンボジアの恵まれない子どもに支援をしようと呼びかけてきました。そして実際に学校と病院を建設。3年間の活動を追ったドキュメンタリー映画「マジでガチなボランティア」が12月4日に公開されます。右松さんに当時の話を聞きました。【小丸朋恵

「アイは立派なこと。ただ、「まじめな人（ひと）が真剣（しんけん）にやるもの」というイメージがありました。僕は「まじめ」が苦手（苦手）なんです。☆カンボジアへの寄付金（きふきん）は、「グラフィス」主催（しゅはい）のイベントの収益（しゆえき）です。」

イメーヅして勉強に励むことが
できず、毎日友だちと遊んでい
ました。楽しかったけどどこか
むなしかった。力いっぱい打ち
込めるものが欲しかったんです。
☆カンボジアを見てどう感じ
ましたか。

★派手なイベントではなく、
フリーマーケットや募金ほきんで地道じみち

★学校で学び、仕事を不得、
家庭をつくる……。日本では当

が根付き、いつか、どこかで支援に関心を寄せてくれるかもしれない。僕らはそのきっかけを作りたいと思ってきました。

☆今は医者の研修生です。

★「グラフィス」は学生の団体なので、距離をとりつつサポートしたいと思っています。今は、医療に携わる者として、途上国に何ができるかを考える日々です。

☆どんな小学生でしたか。

★好きな女の子を追いかけて

ばっかり。でも、勉強は好きで
 した。父が医者で、患者さん
 のことを第一に考える姿を見てき
 たので、人の役に立ちたいとい
 う思いは子どものころからあり
 ました。外見はチャラいけど、
 中身は結構、純真なんです。

◇プロフィール◇
東京医科大学在学中にカンポジアを支援するチャリティーサークル「グラフィス」を立ち上げ、4年間代表を務める。グラフィスは、これまで30大学55人が参加。カンポジアには、2006年に小学校、09年には診療所を建設。1984年、大分県生まれ